

令和8年度 墨田区立寺島中学校 研究構想図

【主題設定の背景】

①社会的背景

VUCA・AI・少子化時代→主体性・協調性・コミュニケーション能力が必要

②生徒の実態

指示待ち傾向、主体性(当事者意識をもち、自ら考え行動すること)・粘り強さに課題

【研究主題】

生徒の非認知能力の育成

— 生徒が『主語』の主体的な活動を通して —

【目指す生徒像】

- ・自ら考え、判断し、行動できる生徒(主体性)
 - ・課題に粘り強く取り組む生徒(やり抜く力)
 - ・自分を認め、前向きに挑戦できる生徒(自己肯定感)
 - ・他者と関わり協働して学ぶことができる生徒(協働性)
 - ・学びを自分事として捉え、振り返り改善できる生徒(自己調整力)
- 👉すなわち、
「やらされる学び」から「自分の学び」を実現する生徒

【研究仮設】

あらゆる教育活動において、「生徒が主体となる」活動を設定し、教師が伴走的に支援することで、非認知能力は育成されるだろう。

【具体的な手立て】

(1) 授業改善

- ・生徒が「考える・選ぶ・決める」場面の設定
- ・自由進度学習の導入
- ・PBL(課題解決型学習)の実践
- ・話し合い活動・協働学習の充実
- ・座席配置の工夫(アイランド型)

(2) 評価の工夫

- ・OPPA(1枚ポートフォリオ評価)の活用
- ・学習の振り返りの充実
- ・生徒の変容の見取りと言語化
- ・結果ではなく過程を評価する

(3) 学校生活全体での取組

- ・生徒主体の行事運営(企画・実行)
- ・生徒会活動の充実(自治活動)
- ・「任せる・委ねる」指導の実践
- ・日常生活での問いかけ
(例:「どうしたい?」)

(4) 教師の役割転換

- ・教師主導からファシリテーターへ
- ・「指導」から「見取り・評価」へ
- ・生徒の小さな変化の共有
- ・試行錯誤を価値付ける

(5) 家庭との連携

- ・努力や過程を認める声かけ
- ・自立を促す関わり(任せる)
- ・失敗を肯定する対話